

「キャンパスマスタープラン2025」によせて

富山大学は、平成17年の再編・統合以来、教育・研究・社会貢献の三位一体の発展を通じて、地域とともに歩む総合国立大学として着実に歩みを重ねてきました。現在では、9学部及び附属病院・研究所等を擁し、9,300名余の学生と2,500名余の教職員が集う、北陸・日本海側を代表する知の拠点となっています。

今日、社会はSDGsの達成、カーボンニュートラル、デジタル変革、人生100年時代、人口減少といった大きな変化の渦中であり、大学にはこれまで以上に、持続可能な未来社会の構築に貢献する役割が求められています。その中で重要となるのは、多様な知を結集し、新しい価値を創造する「場」としての大学の機能であり、その基盤となるのが、教育・研究・交流の舞台である「キャンパス」です。

キャンパスは、多様な知と人材が集い、学びと研究、社会との交流が重なり合う大学の基盤空間です。そのあり方は、教育研究活動の質のみならず、地域や社会との関係性にも大きな影響を与えます。社会の変化に柔軟に対応し、新たな価値創造を促すため、キャンパスの機能と環境を戦略的に整備していくことが重要です。

富山大学では、全学必修のデータサイエンス教育、アクティブラーニングの推進、英語教育の充実をはじめとする教育改革を進めるとともに、軽金属材料研究、創薬・未病研究、カーボンニュートラル、文化財保護、脳神経科学など、地域と世界の課題解決に資する先端的研究を展開してきました。こうした教育研究活動をさらに発展させるためには、分野や組織の垣根を越えた連携と共創を促すキャンパス環境の整備が不可欠です。

このたび策定する「富山大学キャンパスマスタープラン2025」は、本学の理念と中長期ビジョンのもと、安全・安心で快適な教育研究環境の実現、デジタル社会に対応した学修・研究空間の高度化、脱炭素社会に貢献するサステナブルキャンパスの構築、老朽化施設の改修、さらには地域・社会に開かれた共創拠点としてのキャンパス形成を柱として、

将来にわたる施設整備とキャンパスデザインの指針を示すものです。

本学が立地する富山県は、豊かな自然環境、歴史と文化、そして卓越した産業基盤を有する、日本でも稀有な地域です。富山大学は、こうした地域資源と強く結びつきながら、人材育成とイノベーション創出の中核拠点として、地域の持続的発展に貢献するとともに、世界に開かれた大学として新たな価値を発信していく責務を担っています。

こうした使命を果たすためには、大学と地域社会が日常的に関わり合い、相互に学び合う基盤として、市民にも開かれたキャンパスの存在が重要となります。教育・研究・交流が重なり合う空間を整備することで、学生・教職員だけでなく、地域住民や自治体、企業など、多くの人々が対話と協働を進め、新たな価値創出につなげていくことが可能となります。

本マスタープランの実現を通じて、富山大学のキャンパスが、学生・教職員はもとより、地域住民や産業界、国内外の研究者が集い、学び、語らい、新たな挑戦が生まれる「知の交流拠点」となることを願っています。

今後とも、関係の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年3月

国立大学法人富山大学長
齋藤 滋



目次 Table of Contents			Term
00	はじめに –Introduction–	1	
I.アカデミックプランとキャンパスマスタープラン		2	
01	アカデミックプラン	3	
02	中期目標・中期計画	4	
03	国立大学の施設整備に係わる国の施策	6	
04	キャンパスマスタープランの位置づけと実施体制	7	
05	科学技術基本計画と国立大学法人等の施設整備施策	9	
II.キャンパスの将来像		12	Long-Term 2041年～ (R23年～)
06	基本方針	13	
07	キャンパス整備の目標（五福・杉谷・高岡キャンパス）	13	
08	キャンパス全体を「イノベーション・commons（共創拠点）」へ	17	
09	フレームワークプラン	21	
10	「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」にむけて	24	
III. アクションプラン		27	Near-Term 2026年～2029年 (R8年～R11年)
11	アクションプランのTerm	28	
12	施設整備計画	28	
13	施設マネジメントの推進	32	
14	省エネルギーの推進	41	
IV.項目別計画		46	Mid-Term 2030年～2040年 (R12年～R22年)
15	項目別計画について	47	
16	土地利用，ゾーニング計画	47	
17	ランドスケープ計画	50	
18	オープンスペース，パブリックスペース計画	51	
19	交通，動線計画	53	
20	デザインガイドライン計画	57	
21	サイン，アート計画	58	
22	ユニバーサルデザイン計画	59	
23	グローバル化・イノベーション創出空間計画	62	
24	災害と安全性を考慮したキャンパス計画	64	
25	環境，サステナビリティ計画（カーボンニュートラルを目指して）	71	
26	キャンパス資源の活用計画	79	
27	基幹設備（ライフライン）計画	82	
28	施設長寿命化計画（総合管理計画）	84	
V. キャンパスの現状と課題		90	
29	キャンパスの基礎データ	91	
30	点検・評価	100	
31	「キャンパスマスタープラン2020」の検証	111	
32	第2次・第3次・第4次及び第5次国立大学等施設整備5か年計画における整備建物等	129	
33	キャンパス整備の課題	142	

参考資料		151
参考資料 1	第5次国立大学法人等施設整備 5か年計画の検証	152
参考資料 2	第6次国立大学法人等施設整備5か年計画	153
参考資料 3	国立大学法人等施設整備事業の選定の考え方	155
参考資料 4	富山大学にかかわる地震・津波災害とその対策について	160
参考資料 5	原子力緊急事態宣言発出後の体制	167
参考資料 6	耐震性能を表す指標	168
参考資料 7	施設に起因する破綻のシナリオ	169
参考資料 8	施設整備費の推移	170
参考資料 9	18歳人口と大学入学者等の推移	170
参考資料10	国立大学法人のうち附属病院を有する総合大学25校の比較	171
	学生数と建物延べ面積	171
	学生及び教員 1人当たりの建物延べ面積	172
	男子学生数と女子学生数	172
	留学生数と留学生の比率（留学生／学生数）	173
	教員 1人当たりの研究経費及び学生1人当たりの教育経費	173
	土地固定資産と建物固定資産	174
	施設整備補助金と投資活動によるキャッシュフロー	174
参考資料11	富山大学の施設に関するデータ	175
	保有面積と運営費交付金の推移	175
	固定資産と減価償却の累計	175
	Mid-Term（2040（R22）年）までの施設整備の需要の試算	176
	空調機器の更新サイクルによる整備台数の試算	176
	建築物用途別面積と割合	177
	<STEP1>大学全体の過去6年間における延床面積と原油換算量	177
	<STEP1>五福・杉谷・高岡キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	178
	<STEP1>五福キャンパス（五艘団地含む）の光熱水費支出額と原油換算量	178
	<STEP1>杉谷キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	179
	<STEP1>高岡キャンパスの光熱水費支出額と原油換算量	179
	<STEP1>大学全体の過去6年間における電気・ガス・重油の原油換算量	180
	<STEP1>各団地の過去6年間における電気・ガス・重油の原油換算量	180
参考資料12	エネルギーマネジメントによる光熱水費削減の取り組み課題	181
参考資料13	ZEB化実証事業	182
参考資料14	環境配慮活動令和3年度計画表（具体的活動・手引き）	183
参考資料15	国立大学法人富山大学施設マネジメント委員会規則	185
参考資料16	国立大学法人富山大学における施設の有効活用に関する規則	186
あとがき —Afterword—		188